



絆 きずな

平成26年4月
第40号
荒川区立南千住第二中学校
校長 齊藤 進

ナンちゃん・ニーくん



絆はかたく温かい学校をめざして

校長 齊藤 進

新入生の皆さん入学おめでとうございます。男子37名、女子57名計94名の新入生を迎え、平成26年度が始まりました。新入生の皆さんは勉強のことや友達のこと、先輩や先生のことなど期待と同時に不安が大きかったことと思います。しかし、心配する必要はありません。本校にはすばらしい先生方がそろっています。困ったときは何でも相談してください。皆さんをきっと成長できるよう導いてくれます。また、上級生は挨拶が立派で、礼儀正しく、たのもしい生徒ばかりで勉強や部活動、学校行事等に一生懸命取り組んでいます。どうか心配せずに学校生活を送ってください。



新入生の皆さん一人一人はダイヤモンドの原石です。ダイヤモンドになるためには教育目標である「たくましい人」になることです。心と体と頭がたくましい人になるよう3年間色々なことにチャレンジして原石を磨き、ダイヤモンドのように美しい光を放つすばらしい生徒に成長してください。

本校は青少年赤十字活動と南千住の地域学習を特色ある教育活動として取り組んでいます。青少年赤十字活動では「気づき、考え、実行する」を合い言葉にボランティア活動を行っています。地域学習では「南千住の歴史を語る南二中生」をめざして調べ学習やフィールドワークを行っています。昨年度は学習した成果を生かすために南千住検定を実施しました。今年度も検定を行いますので生徒ばかりでなく保護者、地域の方々もぜひ挑戦くださるようお願いいたします。

最後になりますが、本校の校歌に「絆はかたく温かい」という詞があります。いじめがなく、学校が楽しいと思えるようみんなで力を合わせすばらしい学校にしましょう。

保護者・地域の皆様、私をはじめ教職員一同、全力で生徒の限りない能力を引き出し、生徒をたくましい人に成長させるよう尽力したいと思っております。一層のご支援とご協力をお願いいたします。

第26回 入学式



玄関でクラスを確認する



「はい!」と元気に返事



始業式翌日の4月8日(火)、南千住二中第26回入学式が行われました。今年度の新入生は、男子37名、女子57名、計94名で3クラスのスタートとなりました。南千住二中としては開校以来初めて各学年3クラスの合計9クラスとなります。新たな仲間を迎えるために、前日に新たな学年、新たなクラスになった2,3年生が、会場の準備をしました。式は厳粛に行われ、新入生も緊張気味でしたが、担任の先生の呼名に元気に「はい」と応えるようすには、南千住二中での新しい生活に対する希望が満ちあふれていました。式の中では、生徒会長が「皆さんと一緒に楽しい学校生活を」と歓迎のことばを述べ、新入生代表が「前向きに精一杯頑張ります。よろしくお願ひします。」と誓いのことばを述べました。新入生も2,3年生も大変立派な態度で、来賓の方々からお褒めのことばをいただきました。また、式の終わりには2,3年生による校歌(校歌紹介)がアリーナ(体育館)に響き渡り、こちらもお褒めのことばをいただきました。全校生徒297名。仲良く楽しく、そして前向きに学校生活を送っていきましょう。



新入生の入場



誓いのことば 細野さん

生徒会オリエンテーション

入学式から3日経った、4月11日(金)5,6校時には生徒会オリエンテーションが行われました。入学と同時に全生徒が南千住二中学生徒会の会員となります。生徒会オリエンテーションは、生徒会活動とは何か、各専門委員会とはどのような活動をしているのかを説明するもので、同時に2,3年生と新1年生の「対面式」の意味も合わせています。会の中では寸劇を交え、生徒会活動・委員会活動を説明したり、2,3年生が校歌を紹介したりし、入会の証に鉢植えの花を1年生にプレゼントしました。

その後各クラスで専門委員が選出され、生徒会員全員での活動がスタートしました。

寸劇を交え委員会を紹介



JRC登録式



全校生徒で「誓い」を唱和

4月15日(火)には、JRC登録式が行われました。南千住二中は、JRC (Junior Red Cross = 青少年赤十字) に全校加盟しており、地域清掃やボランティア活動などに取り組んでいます。JRC委員会や学校の特色であるレスキュー部の活動もこのJRCの活動に深く関わっています。

毎年4月にはその登録式を行い、全校生徒がJRCの一員である自覚をもち、「**気づき 考え 実行する**」という行動目標のもと活動していく「誓い」をたてます。今回も生徒会本部役員が務めるの生徒代表の宣誓に続き、全校生徒が復唱しました。式の中ではJRC委員長、前年度レスキュー部副部長がそれぞれ活動報告をしました。また、新たに登録された新1年生の代表生徒が、この日講師としてお見えになった日本赤十字東京支部の先生からJRCバッジを授与されました。



JRCバッジの授与

式の終わりには全校生徒で校歌を斉唱し、「誓い」を新たにしました。

地域の方がレスキュー部の活動を新聞に投稿し、紹介されました。全文を紹介します。

4/2(水) 読賣新聞

中学生の訪問活動
地域の絆作る機会

主婦(東京都荒川区)

自宅近くにある区立中学校の生徒数人が、今年2月から月に1回、我が家を訪問してくるようになりました。生徒は中学校のレスキュー部の部員で、地域との交流を深める部活動として、昨夏から高齢世帯を中心に訪問を続けているそうです。

我が家に来るときは、学校便りを持ってきてくれます。2月の大雪の時は、近所の道路の雪かきをしてくれました。短時間の会話しかできませんが、生徒の希望に満ちた表情を見ると心が弾みます。

近年、自然災害が相次いでいます。災害に備えるには、地域住民の絆を強くすることが必要です。地域住民と交流しようとする中学生の姿を見ていると、うれしくなります。地域にとつて大きなサポートになると思います。

これからも生徒たちの活動が続いていくことを願っています。



スポーツ ゴミ拾い

4月13日(日)、南千住スポーツクラブが主催する「スポーツGOMI拾い」が行われ、南千住二中からも1チームが参加しました。スポーツゴミ拾いというのは聞き慣れませんが、定められたエリアで制限時間内にどのようなゴミをどれだけ拾ったかを得点化して競う競技です。南千住二中からは3年1組の男子2人、2組の男子2人の計4名、そして先生1名の5人がチームを組んで出場しました。結果は参加17チーム中13位ということでしたが、初参加としては立派な成績です。



参加した4人

ちょっと変わったスポーツですが、スポーツをしながら地域をきれいにする素晴らしい取り組みでした。

第25回卒業式

3月19日(水)は、南千住二中第25回卒業式でした。卒業式は中学校の儀式的行事の中でも3年間の集大成ともなる最も重要な行事です。卒業生も在校生も最高の卒業式にしようと練習に取り組んできました。

その練習の成果もあり、当日は整然とした中で、厳粛で感動的な式を行うことができました。卒業証書を受け取る姿は誇らしげで、凛々しくもありました。ご来賓の方々からのご祝辞や記念品贈呈のときの態度も立派でした。

前生徒会長が卒業生代表として別れのことばを述べ、卒業生の南千住二中の3年間がよみがえってきました。式歌(「春に」「仰げば尊し」)の頃には卒業式は最高潮を迎え、卒業生の目にも担任の先生の目にも光るものが溢れました。最後に全校生徒全員による圧巻の校歌で卒業生を送り出しました。

平成25年度の卒業生は、男子32名、女子40名、計72名で、南千住二中の卒業生累計は2,244名にのぼります。

卒業生の皆さん、おめでとうございます。今後の一層の活躍をお祈りしています。



厳粛な雰囲気で行われた卒業式



式後、在校生がつくった花道を行く



とても仲の良い卒業生



教室の黒板には卒業生が書いた担任の先生への感謝のことばがびっしりと

卒業期表彰生徒

体育優良生徒	男子1名、女子1名
東京都産業教育賞	男子1名、女子1名
荒川区教育奨励賞	【努力の部】男子2名、女子2名 【皆勤の部】男子4名、女子5名



おめでとうございます

部活動の活躍

運動部は春季大会の季節を迎えています。それぞれの部活動が快進撃を続けています。また、新入部員も続々と入部中。

これからが一層楽しみです。**頑張れ！南千住二中！！**

〈バレーボール部〉

【女子】荒川区春季大会 予選リーグ1位通過(瀧リ-ガ) 第5ブロック大会出場決定

【男子】荒川区春季大会(荒川五中との合同チーム) **優勝** 第5ブロック大会出場決定

〈バスケットボール部〉

【女子】第5ブロック春季大会 2回戦突破(ベスト16進出)

【男子】第5ブロック春季大会 2回戦突破(ベスト16進出)

〈サッカー部〉

第5ブロック春季大会 2回戦突破、リーグ決勝へ

〈ソフトテニス部〉

【女子】荒川区春季大会個人戦 12ペアが出場

1ペア ベスト8 2ペア ベスト16 以上3ペアが第5ブロック大会出場

【男子】荒川区春季大会個人戦 9ペアが出場

春季大会は現在進行中です。詳しい結果等は次号以降に紹介します。

南千住マイスターのコーナー

南千住には多くの史跡・文化財があります。これらは人の活動によってできたものであり、必ず人とのつながりがあります。南千住には歴史の教科書にも出てくるような多くの歴史上の人物と関係が深い史跡や文化財があります。このコーナーでは、南千住の史跡・文化財と歴史上の人物を紹介していきます。第一回は「松尾芭蕉」です。

松尾芭蕉は誰でも知る「おくのほそ道」の著者であり、不世出の俳人です。生まれは伊賀で本名は忠右衛門宗房といい、芭蕉は俳号です。芭蕉は江戸深川の探茶庵(さいとあん)・同じ深川の隅田川沿いにあった「芭蕉庵」を引き払って移り住んだところ。芭蕉庵跡には現在芭蕉記念館があります(を船で出て、隅田川を遡り、千住で降り、長い旅のスタートをしました)。この千住の地で「おくのほそ道」の一番最初に詠んだ句が、素盞雄神社の境内の句碑にもある「ゆく春や鳥啼き魚の目は泪」。これが矢立てはじめの句です。芭蕉のこの長旅にける思いが込められた一句といえます。旧暦元禄二年三月二十七日(新暦1689年5月16日)のことでした。

芭蕉は弟子の河合曾良(そら)を伴い千住を出立したあと、日光・那須・白川の関・松島・平泉・立石寺・出羽三山・越後・越中・金沢・敦賀など、東北から北陸をめぐり岐阜の大垣まで、実に五ヶ月かけ約六百里(2400km)を旅して多くの俳句と紀行文を残しました。

「夏草や兵どもが夢のあと(平泉)」「閑さや岩にしみ入る 蟬の声(立石寺)」「五月雨をあつめて早し最上川(新庄)」「荒海や 佐渡によこたふ 天の河(越後出雲崎)」などは特に有名でよく知られた句です。

芭蕉は「更科紀行」など、他にも多くの紀行文を残しましたが、おくのほそ道から帰って5年、元禄七年十月十二日「旅に病んで 夢は枯野を かけ廻る」という句を詠んで60年の人生を終えました。

南千住と歴史上の人物 その1 『おくのほそ道 松尾芭蕉』



素盞雄神社の句碑